



## まちの駅・時計台の住民説明会

小浜市には「三駅構想」という構想があります。

高速道路のインターチェンジを下りたところにある「道の駅」、川崎の食文化館を中心とした「海の駅」、そしてつばき回廊跡地を再生して設ける「まちの駅」です。

これは、高速道路が全線開通する前からずっと心配されてきた、「高速道路が全通すると小浜市が通過点になりはしないか？」という懸念にこたえ、「小浜市を観光の目的地とする」ために組み立てられた構想です。

「海の駅」は、食文化館のリニューアルなどで施策が講じられていますが、大きな目玉である「まちの駅」は、全国でも珍しい「現存する芝居小屋」である「旭座」の移転再築を核とし、小浜市を訪れる人々の流れが、まちの駅を拠点に、西組や、海の駅へ向かうための結節点として捉え、今回、市当局が最も力を入れて整備する予定となっております。

もちろんまちの駅の整備の目的のひとつとして、我が西組の環境整備も進められる予定ですので、西組としても決して他人事ではありません。まちの駅構想と、我々が願って止まない西組の環境整備は、切っても切れない関係にあります。

このまちの駅に、旧小浜地区の地域住民からご寄付を募って、まちの駅のシンボルとなりうる時計台を整備する計画が、平成25年度の区長会と小浜地区まちづくり協議会が中心となって立てられ、市当局への寄付申し入れが、昨年度に行われました。

これは、県はじめ、市からも、まちの駅と西組に巨額の整備費が入り、整備が進められるため、地域住民の甲斐性だけでシンボルを整備し、地域住民の意気を示そうというもので、最近の行政の基本方針である「地域の方ががんばっている地域に力を入れて整備を進めていく」という観点からも大切なことであり、市内の他の地域の皆さんも、たいへん興味を持って見ておられる事業です。

この趣旨をご理解いただくために、1月、西部、中部、東部の三カ所に分けて、説明



福祉センターでの説明会の様子

会を開きました。足下の悪い中、各会場にはたくさんの人にお集まりいただき、熱心に耳を傾けて下さいました。説明会では、三駅構想、まちの駅構想、基本コンセプトなどの説明が市役所の担当部局からあり、その後、小浜地区まちづくり協議会から、時計台の意義、計画の概要、寄付のお願いがありました。

2月には寄付の募集が始まります。昨年度と本年度の区長さんが皆様のところをお願いに伺いますので、地域の皆さんには、出費多難の折誠に恐縮ですが、趣旨ご理解の上、ご協力をよろしくお願いいたします。



\*あくまでイメージです。

## 小浜地区西部防災研修会行なわれる

小浜西組町並み協議会副会長 中島 福則

2月8日(日)福祉センター2階において、自主防災に関する研修会を実施しました。

今回の研修会に呼びかけたのは、小浜西組9区の各防災会会長、防災委員、地区担当の民生委員、小浜西組町並み協議会の役員のみなさんと小浜市役所文化課の数名の参加をお願いしました。また講師には小浜市役所生活安全課から2名の方に来ていただき映像を交え、日頃からの防災訓練の必要性や、災害時には、自分のことは自分で守るための準備品とその意識の必要性など、自主防災に対する基本的な考え方を大変わかりやすく説明していただきました。

阪神淡路大地震の際に被災されて助かった人達から集めたデータによると、自助・共助・公助によって助かった人の割合は、自助7割・共助2割・公助1割の比率だったそうです。



被災時には、自分、家族、隣近所の人達による救助が9割となっており、災害発生から72時間以内は、救助隊到着まで地域住民による救助活動が大変重要となってきます。防災に対する意識の高揚や知識の習得、自主防災訓練等がいかに大切か、よく分かりました。

小浜ではまだまだ希薄なこの意識も、静岡県などに行くと、個人レベルでの災害時に必要な設備、準備物を確保しておくのは当たり前になっていて、訓練も真剣に行われているようです。



次に若狭消防署予防課の方に被災時にけが人、病人やお年寄りなどの自分で安全な避難所へ行けない方を近所の人達で担架や身近にある、毛布、布団、ブルーシートなどを

利用して運ぶ練習を、実際にしていただきました。大人ひとりを運ぶのに女性だと4人でないと運べないのが、実感できました。

また、災害時のけが人への応急処置や、各家庭の消火器を持ち寄って火災現場の初期消火にあたる時の注意点などをお聞きしました。

福祉センター1階の元保育園保育室の1室を昨年の暮れより、西組町並み協議会の防災倉庫としてお借りしています。研修会の最後は、この防災倉庫に集合して、実際にある設備を見てもらい、点検しながら使用方法を確認しました。まだまだ、足りない設備があるとのことで、これから少しずつ整備して行こうということになりました。

倉庫の中には、強力ライト付き発電機1台、ドラム式延長コード2台、訓練用消火器8本、防災ヘルメット5個、担架5本、組み立て式アルミリヤカー1台などが収納してあります。災害時や訓練の場合には、各区に保管してある資材と共に、この資材を活用することになるでしょう。防災備品の整備や避難訓練等の時の保険代として、各区より年間3,000円の活動資金の補助をいただけないか、各区の総会にかけて頂きたいとお願いをして、小浜西組自主防災会の研修会は午前中で終了しました。

今回の研修会で学んでいただいた事は、区の総会などで、各区の区民の皆様へ広くお伝えして頂きたいと思います。各区の皆様には、ご理解と御協力をお願い申し上げます。



若狭シルバー人材センターは小浜鹿島の旧第二保育園を飲食と物品販売が行なえる施設にしようと改装をすすめられています。しばらく雑草で荒れていた保育園の園庭も駐車場にする為、きれいに整備され、室内の方も着々と工事が進んでいます。

作業中の若狭シルバー人材センターの会員さんにお話をお聞きしました。

「空いている建物を利用して何かできないかと話し合った時、一線を退いた人たちが働ける場所があり、お茶を飲みながら世間話をしたり、相談ごとを話したり、気楽に集える場所があればいいなというのがきっかけです。

ここでは会員が作ったランチを食べることができます。野菜も販売しますし、漬物もここで加工販売します。コーヒー等の飲み物もあります。すべて若狭シルバー人材センターの会員が手作りで行ないます。





名称を『花水木』と名付けました。オープンは3月1日(日)。開館時間は10時～18時ですが、11月～3月は冬時間で、10時～17時です。定休日は水曜日。あくまで予定です。地域の方は元より、小浜に訪れた観光のお客様にも大いに利用していただきたいと思っています。そしてこの地元の方でお手伝いをして下さる方があればとてもありがたいです。」と話して下さいました。

問合せ先 若狭シルバー人材センター  
TEL.56-5115 松本 治

投稿コーナー



町並み月報に地域住民が自由に投稿できるコーナーです。協議会までどしどしお寄せください。(町並み保存資料館ポストへ投函ください。)

「モリモリ若狭路 冬・春キャンペーン」開催中!

県が主催の「モリモリ若狭路冬・春キャンペーン」が嶺南地域で只今開催中です。

嶺北又は県外在住の方を対象に、嶺南の宿泊施設、飲食店、観光施設などを訪れ、買い物をするかサービスを受けると、

利用金額に応じて専用カードにスタンプを押してもらえます。スタンプが集まるとカードと引き換えに、嶺南地域の特産品がもれなくもらえる仕組みとなっています。小浜では84のお店がこのキャンペーンに協賛しており、ふぐ料理セット、笹漬けセット、お漬物セット、若狭塗箸、民芸品等々の商品を選ぶことができます。

このキャンペーンでは指定の観光施設(2カ所まで)を訪れてもスタンプを押してもらえます。小浜市内は、小浜町並み保存資料館、森林の水PR館、食文化館、県立若狭歴史博物館です。

小浜町並み保存資料館の5名の管理人当番は、市の商工観光課の担当の方から一度聞いただけでは理解できなかったところもあり、スタンプを押す際の細かいルールをもう一度説明していただこうと再度説明をきいて、我々なりに勉強会をしました。スタンプを押す際にミスがないようにすること、スタンプカードを持っておられない嶺北地域の方と県外者にはもう一度訪れてほしいという意味を込めて、キャンペーンのPRをしようと意気込んでいるところです。



キャンペーンのパンフレット

このキャンペーンは4月5日(日)まで行なわれます。水色の“のぼり”が目印です。

小浜西組町並み協議会からの  
お知らせ

■ 雛人形展 2月25日(水)～3月21日(土) 火曜日休館  
笹川真照さん「切り絵展」同時開催! お楽しみに!!

